

身尾俱似小鯿、腹下黃、背上青黃、腮下有二橫骨兩鬚、有胃羣游作聲如軋々、性最難死、小野氏曰、是可以充加良加伎、

〔類聚名義抄十〕鯛 音罔、カラカコ、

鰐 士堵反、白魚、カラカコ、

鰐鰐 今正音、鱗、

〔易林本節用集幾氣形〕鰐

〔和爾雅六〕鰐絲魚

〔物類稱呼二〕黃頬魚動物、備前にてぎ、東國にてぎ、北國にてあいかけ、加賀にてざす、奥州及越後にてはちうを、越前にてあかにこ、出羽にてがばち、上總にて川ばち、伊勢にてども、土佐にてぐ、といふ、此魚背の上に刺有て人を刺す、ごきくと鳴く、人これを捕ふ時は、はなはだかなしむ聲を出す、今按に享保十三年戊申秋、東國所々洪水せしころより此魚うせたり、玄かうして後、鯿と云、澗東國に生ず、うたがうらくはぎ、鯿に變じたる物歟、

〔本朝食鑑七〕鰐 河湖無鱗、鰐俗訓岐岐、與鮎同。

集解、鰐生于溪澗田水間、狀類加志加魚而有鬚、背淡黑帶黃赤、頭大口濶、其尾有小岐、背上鬚刺螯人、大者及尺、有聲如蛙鳴、俚語曰、吾喜吾喜、人捕之則哀聲甚悲、又俚語曰岐岐、肉味不及鯛鯡、尙野人之食也、

肉氣味甘溫無毒、主治破瘀消癩、多食則害人、

〔本朝食鑑十〕鰐 華和異同、鰐

本草所謂杜父魚也、當作渡父、即渡父採于溪澗所食也、名船石魚、見人則以喙插入泥中如船石也、時珍曰、生溪澗中、長二三寸、狀如吹沙而短、其尾岐、大頭濶口、其色黃黑有斑、脊背上刺螯人、即是本朝溪澗之鰐也、鰐似鯛同、非鯛鯡鮎之鯛、吳任臣續字彙補、鯡魚名尾有毒、大平御覽載山海經曰、懸甕之山晉水出焉、其中多鯡魚、其音如叱、此亦渡父乎、